

『あるものないものワークショップ』指導案

- テーマ：「難民問題を前に私たちに何ができるか」
＜ねらい＞
○難民の置かれている状況やそれを支援するUNHCRの活動について知る
○難民問題解決のためにできることを考えるために必要な情報が何か考える

ステップ	○学習活動	・予想される児童の反応	留意点
現状に対する気づき			
難民について知る (20分)	○4枚の写真を見て、どんな状況下にある人々の写真か「～がない」という視点から考え発表する。 ・家が壊されてなくなってしまった。 ・住む場所がなくて、外で生活している。 ・家に水道がない。 ・食べ物がなくて困っている。 ・灯りがない。 ・寒さをしのぐ手段がない。	・生きていくうえで必要な多くのものを失った人々の存在に気づかせる。 ・選ぶ自由や権利、安全などが失われていることも読み解けるよう促す。	
	○何が原因で多くのものを失ったのかを予想し、発表する。 ・戦争 ・迫害 ・命を狙われている ・地震 ・津波	・ここまでの子どもの発言を活かしながら、難民の意味や置かれている状況を確認する。 ・「迫害」という言葉は出づらいかもしれないが、「命を狙われている」などの発言などからヒントを出してイメージすることを促す。 ・「難民」が生まれる要因はあくまで人災であることを確認する。	
	難民とは、人災によってふるさとを追われ、国外に避難し、あらゆる面で不自由な状況に追い込まれた人々である。		
	・1億人以上が現在、家を追われている。 ・避難生活は、時に20年も続くことがある。		
難民が置かれている状況を理解し、これから調べていきたいことを考えよう！			
	○多くのものを失った難民が、もっているものとは何か、4枚の写真を手がかりに考え、発表する。 ・仲間 ・がんばる気持ち ・夢 ・助け合う心	・難民がもっているものを考えさせることで、難民も自分たちと同じように夢や希望をもって生きていることを捉えさせ、「何ができるか」を考える意欲をもたせる。	

＜準備するもの＞

- ・ワークシート:人数分
- ・資料プリント:人数分
- ・授業用スライド・パソコン・プロジェクター・スクリーン
- ・筆記用具

ステップ	○学習活動	・予想される児童の反応	留意点
課題との出会い			
難民の支援とUNHCRについて知る (17分)	○難民となった人々は、どんな支援を必要としているかを考え、発表する。 ・食糧 ・住む場所 ・医療 ・衣類 ・教育 ・新しい仕事		・「不足している物資を届ける」という視点と、「自立した生活を促す」という視点に分けるように板書をする事で、様々な支援のかたちがあることを捉えさせる。
	○UNHCRの存在や活動内容を資料から読み取り、わかったことを発表する。 ・難民を支援する国連の機関として、UNHCRがある。 ・難民として支援を受けるためには、登録してもらうことが必要で、それを国家やUNHCRが行っている。 ・UNHCRは、他の機関やNGOと協力して、食糧を届けたり、テントを届けたりしており、そのための寄付を集めたりしている。 ・難民問題の解決策は、故郷に帰ることなど、安全な地で難民の人々が自立して生きていくことである。	UNHCRは難民を支援している国連の機関で、世界中の国々や団体、企業などと協力して活動している。	・UNHCRの活動内容として、 ①緊急支援 ②自立支援 があることを確認する。 ・国家や様々な団体、企業と連携して活動を行っていることを確認する。
難民のことに ついてさらに 調べていき たい事について 考える (8分)	○さらに何を調べていきたいか書き出す。 ・他にどのような団体や企業がどのような難民支援をしているか。 ・難民を受け入れるしくみにはどのようなものがあるか。 ・なぜ難民の人々が生まれてしまっているのか。 ・UNHCRの歴史。 など ⇒発表は次の時間に行うことを伝える。		・「今の自分にできること」「将来、自分にできそうなこと」「日本の社会（政府、企業、大人）にできそうなこと」を考えるためのヒントになるものであることを確認する。 ・参考となるWebサイトは、P.49参照。

～板書例～

